

レースっていいよね  
第56回「レーサー」の巻

二輪レースの最高峰、WGPが今年もここ日本の鈴鹿サーキットにて開幕した。

去年は予選から白熱し、超・大興奮のレースとなったが、今年は天候不順もあり少し不満気味の予選レースとはなったものの、明けた日曜の決勝レースは125ccクラス、250ccクラス、MOTOクラス、各クラス共に面白いレースとなった。ただ、MOTOクラスの大治郎選手のアシデントは不可解かつ残念でならない。

レースにクラッシュはツキモノだ。

二輪であれ四輪であれ、運転手はコースインすれば全開走行するワケで、そうなる様々理由でコースアウトしたり、クラッシュしたりする。「クラッシュ」と書くと、レース上での特別なアシデントに聞こえるけど、これは紛れもなく「事故」なのである。

当然ながら、その「事故」を最大限無くすべく、関係各位によって規則が決まり時にはコースを改修し、エントラント側もルールにのっとりレースに参加し、最悪アシデントが起これしまっても、その安全性を確保できるよう、最大限の努力や工夫はなされている。

それでも、そこはレーシングスピードで走るのだから、「何か」起これたときのその破壊力、衝撃は筆舌に尽し難い。だから、残念ながら100%の安全性は決して保障されていない。

こんなコトは私自身、既に知っていることだし、頭では理解している。つもりだった。

だけど、今回の大治郎選手のアシデントによって、改めて我々は危険なコトをやっているのだな、とシミジミ感じたのである。

何せ、WGPを観ていれば、ライダーがハイサイドで路面に叩きつけられたりアスファルトを転がっていく映像はザラに目撃する。

その度、(勿論当人はムチャクチャ痛い、に違いないのだが..)ライダーは意外と手を振っていたり、骨折などの重傷を負っていても、次のレースには出場していたり、と、まるで不死身の肉体を持っているよう、に見えるのだ。

実際には、他のカテゴリーを含めると、結構な数の不慮の事態が起これているらしいのだが。

それにしても、レーサーとは何と因果な存在だろうか。

二輪、四輪関わらず、それぞれが好き好んでこういう現場を選び、本能的に「速く」走りたい、のだから。

アシデントが起これることは不可避だ。

それでもみんな、レースが、走ることが、好きなんだよなあ・・・。

今はただ、大治郎選手が再び#74のゼッケンを付けてコースに戻って来ることをせつに祈るしかない。

(10Apr03)



[GO to TOP PAGE](#)